

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2023年11月1日 242号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



レダの従業員の健康相談。左が井上医師。8月13日



スピードボートに乗って、井上医師と看護師がレダに到着。8月12日



レダに記念植樹：「一心くん」と名づけました。8月15日



カトルセ・デ・マジョ村診療所でのヒアリング。8月14日

医師によるオンライン診療・医療相談へ道

去る8月12日から15日まで、精神科医、井上貴裕氏(37)が看護師1名を伴ってレダと周辺地域を訪れ、精力的に医療状況を調査してきました。井上医師は、(二社)CAM Pの事務局長として、カンボジアにおける医療奉仕活動にも携わっています。以下、井上医師のレポートの概要です。

●**レダの医療状況**…最も近い医療施設まで60キロメートル余もあり、その医療施設も診療所レベルです。日本でごく当たり前の医療を受けるためには、遠路、首都アスンシオンまで行かなくてはなりません。

●**経緯**…どのような医療支援ができるのかを考えるにあたり、まずは現地の状況を肌で感じ、現地のニーズを知るための視察が必要！ まずレダで、皆さんの活動現場を視察することにより、起こりうる医学的問題点を知ることです。そして活動の現場での困りごとをヒアリングしました。

●**医療相談**…レダで働くインディヘナの方7名と、日本の方数名の相談を受けました。インディヘナの方々の症状は、虫刺されが化膿したもの、腰痛、白内障、食後の腹痛、膝の痛み、頭痛等でした。

●**レダへの医療支援**…これまでこちらの考えていた医療的なニーズが、現地と噛み合わないという感覚を感じていましたが、初日の訓読会に参加し、「このレダの空間は、ものすごく神様に守られてきたから、大きな問題がほとんどなく、ここまでこれたのだ」ということを感じました。

レダへの医療支援の構想は、①日本人スタッフ(シニアと青年)へのオンライン医療相談 ②看護師等で長期でレダに行ける人を派遣 ③レダのインディヘナ従業員の医療相談、これらが主要な柱になります。

●**エスペランサ村の状況**…村に診療所はありますが、医者はいなくて看護師のみです。患者さんには政府から送られてくる薬を無料で渡します。高血圧が多いのですが、塩分の取りすぎが原因だと思っています。また、川の水をそのまま飲むので下痢も多いです。歯医者がおらず虫歯も多いです。

●**カトルセ・デ・マジョ村**…医療の状況はエスペランサと大きく変わりませんが、もし患者さんをオリンポ等に搬送する場合、その手段がないため「ボートを寄付してくれ」と言われました。

●**ディアナ村**…ここも医療の状況は大きく変わりませんでした。学校の先生方も迎えて下さり、これまで奉仕活動を行う中で培われた信頼関係の大きさを感じました。診療所は一応あるのですが、今は看護師不在で、(次面につづく)



お昼は牧場風の料理をいただきました。9月10日



レダSNAP

カナン牧場を訪問したレダの若いメンバーたち。9月10日



8月・9月生まれのメンバーの誕生を祝って、盛大な和動会を催しました。9月26日



剪定作業の合間の岡崎氏。9月20日



井上医師(左)に養殖場を説明する滝川さん。8月13日



公館2階の回廊にて、島田夫妻の誕生週の記念撮影。8月26日



レダ第一農場でパパイヤを収穫するチャパボラメンバーたち。10月6日



パクーを釣ったチャパボラ。9月25日

（一面より続く）全く機能せず、廃墟のようになっていました。ディアナでもエスペランサと同様、塩分過多による高血圧や砂糖のとり過ぎによる糖尿病や虫歯問題、生水の危険性等に関する教育へのアプローチはできそうでした。

●まとめ…これまで各村の住民たちに対して尽くされてきたものが大きく、信頼関係が完全にできています。医療奉仕活動をするにしても、何の基盤もないところにするのとは全然違います。

私たちがレダとその周辺地域で目指す医療奉仕のあり方は、レダを中心としたこれまでの奉仕活動の延長として、それを補強する形で意味合いが大きくなると思っています。医療奉仕を中心に考えるのではなく、総合的な奉仕活動の一端を担うという感覚が近いかなと思います。そうすることが、医療奉仕がレダの活動の中心になる目的に貢献できると感じました。



わだけんいち
和田賢一

南米遠望 (5) 南米のイメージは正しいのか

私たちが地球儀や世界地図を前にして南米大陸を眺めてみると、どのような印象を受けるでしょうか。端的にわが日本の反対側にあるのだという点と、何と広大な陸地であるかということでしょうか。

では、そこにある国や社会はどのような姿か、またそこに暮らす人々はどうのような人々なのかと想像してみても、それだけでは当然答えが出てきません。そこで遠い地から答えを探る有効な手段の一つが、まず物の本を手にしてみることです。

私が手にしたものは、作家・船戸与一の南米3部作といわれる「山猫の夏」「神話の果て」「伝説なき地」という小説でした。3作とも1980年代に書かれたものです。

「神話の果て」は、ペルーが舞台で、莫大な埋蔵量のウラン鉱床が眠る山岳地帯をめぐる、鉱山開発を進める米国企業とそれを阻止しようとする左翼ゲリラ組織が対立。米国企業から現地調査の依頼を受けた日本人が、案内役のインディオ2人とともに



複合遺産 マチュ・ピチュの歴史保護区 (Pixabayより)

ゲリラの基地があるチャカラコ溪谷に向かう。ウラン鉱床の採掘権をめぐるCIA(アメリカ中央情報局)まで登場して、ペルー山岳地帯は流血の惨事となる。

「伝説なき地」

は、次のようなストーリーです。ベネズエラのマラカイボ湖周辺の町は産油地として繁栄してい

たが、今は油田の枯渇とともに町も衰退。しかし周辺がレアアースの埋蔵地であることが判明した。このため、その土地の所有者、ベネズエラの名門エリゾンド家はお家騒動に発展、次男アルフレードが実



自然遺産ロス・グラシアレス国立公園 (Pixabayより)

権を握る。ところが、その土地にコロンビアからの難民が住み着き、新たな問題を抱える。さらにそこには「マグダラのマリア」と若い女性を中心とした宗教的共同体が形成されていて、問題はこじれていく。小説の筋書

きを追うことが本稿の目的ではありません。無論、小説ですから、現実の南米世界とは乖離(かいり)があります。作家・船戸与一が追うテーマに、南米を理解する上で、示唆に富む材料があるのではないかと思います。

南米大陸のイメージのもう一つは、数多くのユネスコ世界遺産を抱えていることにより、歴史と自然の宝庫だという点です。数と知名度では圧倒的な、ヨーロッパのイタリアやフランス、ドイツと比べるわけにはいきませんが、南米にはイグアスの滝やマチュピチュなど、誰もがその名を知る世界的な観光名所が集まっています。

2019年現在、合計1121か所があり、そのうち文化遺産が869(全体の78%)、自然遺産が213(19%)、複合遺産が39(3%)、その他危機遺産が53、取り消し遺産が2となっています。いくつかの例を挙げてみましょう。

・マチュピチュ(ペルー)



自然遺産 パンタナール保全地域 (Pixabayより)

地球儀を眺めるだけでは、湧き上がるこのない感情も、現地に立つことによって初めて動き出し、畏怖や尊敬、はたま驚異といった感情の色合いに包まれるものです。

「実物・本物」

を見てこそ、より正しいイメージに迫れるという当たり前のことを、私は南米でもつくづく実感したのでした。(つづく)

- ・ロス・グラシアレス国立公園(アルゼンチン)
- ・パンタナール湿地(ブラジル、ボリビア、パラグアイ)
- ・タスク旧市街(ペルー)
- ・ナスカの地上絵(ペルー)
- ・イグアスの滝(アルゼンチン・ブラジル)
- ・アマゾン川(ブラジル)
- ・カナイマ国立公園(ベネズエラ)
- ・キト旧市街(エクアドル)
- ・イエズス会の伝道所遺跡(パラグアイ)

改めて、こうした世界遺産の数々を見てみると、豊かな歴史と美しい大自然を抱えていることが理解できます。わが国も世界に誇る歴史と自然を豊富に抱えていますし、どの国にも独自のそれはあります。しかし南米のそれは大陸のスケールの大きさに比例して巨大だということでしょうか。

私はこれまで、パラグアイのフエルテ・オリンポに1か月超の期間で2度、ブラジルのサンパウロに一度10日余り滞在したことがあります。フエルテ・オリンポではパンタナールの美しさと野生の生命力を、サンパウロではブラジルを開拓した日系人の苦闘の足跡を見聞きしてきました。

レダの電気屋さん

【第4回】前回に引き続き、レダの電気事情についてです。現在レダではANDEというパラグアイ国営の電力会社からの給電を受けていますが、その電気の品質がとても悪く、時期にもよりますが停電は週に何度もあります。また、時にはその停電が数日にわたることもあります。更に悪いことに、電圧も不安定で、公称電圧は220ボルトなのですが、150ボルトくらいにまで下がることがあったり、逆に高い時は260ボルトを超えることもあります。その結果、電気製品が壊れてしまうこともしばしばです。

停電の時は、ジェネレータ（発電機）を回すことになります。ANDEの電気がレダに導入されたのは2009年ですが、ジェネレータはその8年前に設置され、すでに22年ほど使用しているものです。ジェネレータは4台あるのですが、現状、構内電源として使用できるのは2台です。この2台をメンテナンス・修理しながら、運用しているのが現状です。次回は電圧変動の詳細についてです。（山崎茂章）



レダのジェネレータ（発電機）：奥からⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳと番号が振ってあります。現在、構内で使用できるのはⅠ、Ⅲの2台のみです。Ⅰの最大出力は150kVA、Ⅲの最大出力は110kVAです。

第26回パンタナール・ワンデイセミナー開催

青年の活躍に感銘と希望！ 去る9月30日（土）、

東京渋谷の国立オリンピック記念青少年総合センター4階の研修室において、当法人の主催で「第26回パンタナール・ワンデイセミナー」を開催しました。副題は「レダはあなたの力を求めています」でした。当日は天候に恵まれ、ようやく爽やかになった秋らしい空気の中、9時45分のオリエンテーションを前に、続々と参加者が到着。参加総数は、69名になりました。

司会は今やベテランの和田賢一氏。「お名前ビンゴ」のミニゲームで会場を和やかに整えると、実行委員長、高橋昭三氏が開会のあいさつ。

一番目の講話は、柴沼邦彦理事による第1回レダプロジェクト体験プログラム（本紙前月号参照）の体験報告。柴沼氏は同プログラムの指導スタッフとして参加し、自身の目で直接見た青年たちの力



あふれる歩みと成長の姿を、動画と写真をふんだんに使い、実感を込めて報告しました。

その後、外で記念撮影をし（右の写真）、カフェテリアに移動。食事をしながら楽しく交流しました。午後一番、中田欣宏代表理事が「レダプロジェクトの現状とビジョン」を、解りやすく解説。会場内の各所から、真剣な眼差しが向けられていました。

藤生輝彦青年局長による「レダ滞在青年たちの今の活動」では、はつらつとしたレダの若者たちの姿と声が伝えられました。さらにレダから帰国した青年2名が、体験談をリアルに報告。青年たちの率直

な言葉は、多くの人々に感銘と希望を与えました。近年、青年たちが主役を務めるセッションがますます充実し、セミナーにおいても光彩を放っています。



体験報告をした2青年。

短い休憩後、分科会となり、3つのグループがそれぞれ中田代表理事、吉村理事、藤生局長を囲んで、親しく質疑応答と懇談の場を持ちました。そして時間が過ぎ去り、惜しまれつつ終了。「お知らせ」では、和田氏が「第2回パンタナール特別セミナーのご案内」を、高橋容子さんが「入会案内」を、熱い思いを込めて参加者たちに呼びかけました。最後に感想文を書き、和やかな雰囲気の中に、予定時刻通り閉会しました。

レダ・プロジェクト紹介用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

eメール: office@asd-nsa.com

ホームページ: <https://asd-nsa.com>

Facebook: <https://www.facebook.com/ledaproject.jp/>